

〈6月定例研究会〉

平成28年6月11日に 定例研究会がありました。

今回のテーマは「時計の学習」です。

午後5時から5時30分まで研究授業、6時から研究協議がありました。

研究授業者:高橋 敦子(つばき教育研究所スタッフ)

テーマ:「時計の学習」

学習内容:アナログ時計の時刻を読む・作る学習

I. 指導経過

平成18年9月から指導を開始した。

1. 基礎学習(平成18年9月～11月)

2. 文字の学習

(1)単語構成の学習

清音を含む単語の構成の学習(平成18年12月～平成20年10月)

濁音・半濁音を含む単語の構成の学習(平成20年10月～平成22年1月)

拗音・長音・拗長音・促音を含む単語の構成の学習(平成22年2月～平成23年4月)

・学習中は読めたり、書けたりするが、忘れやすく定着しにくい傾向があったので、市販の「ことば絵じてん」などを用いて、ことばを覚える学習を行ってきた。

(2)動詞の理解の学習(平成22年2月～平成23年9月)

(3)文の構成の学習

1つの助詞を用いた文の構成の学習(平成23年4月～平成24年3月)

2つの助詞を用いた文の構成の学習(平成24年4月～平成25年5月)

3つ以上の助詞を用いた文の構成の学習(平成25年6月～現在)

・助詞の定着が難しいので学習を継続している。

(4)その他の学習

①カタカナの学習・・・ひらがなをカタカナに書き表すことができる。

②漢字の学習・・・1年生程度の漢字の読み書きはほぼできる。漢数字の読み方はまだ難しい。

③仲間のことばの学習

・学校の担任の名前

・クラスの生徒の名前

- ・通所先の名称
- ・よく行く店の名称
- ・よく飲む飲み物の名称
- ・スポーツの仲間
- ・色の仲間
- ・果物の仲間

3. 数の学習(平成22年6月～現在)

(1) 数字の読み書き

- ・1～60までの数の読み書きはほぼできているが、1、2か所間違っていることがある。

(2) 数える学習

- ・バラタイルが10ずつ並んであれば、30まで数えることができるようになった。

(3) たしかめ板を用いる「同じ」の学習

(4) 合成・分解

① たしかめ板を用いる合成・分解

② トレイを用いる合成・分解

③ タイルを2つに分ける方法

- ・タイルを用いて、10までの合成・分解は概ねできるようになった。
- ・どの方法においても、タイルの数が5以上だと、数え間違いが度々ある。

また、答えを出す空間が変わると、難しい様子がみられた。

4. 時計の学習(平成24年7月～現在)

- ・中学生になり、休みの日に学校以外で活動する場が増えた。時計が読めるようになれば、行動し易くなるのではないかと考えた。保護者からは、デジタル時計の「〇時」は読めるようなので、アナログ時計の学習を行ってほしいとの話があった。

- ・現在では「〇時に出かけるよ。」と伝えておくと、時計を見て、その時刻を教えるようになった。

※下記のAからKはプリント教材です。最後の添付資料を参照してください。

(1) 1から60までの数字の読み書きの学習

- ・「数の学習」を開始した時期から数字の読み書きの学習を行ってきた。

60まで書く学習では、1、2か所間違っていることがまだあるので、学習を続けている。

(2) 時刻が数字で表記されたカード(例 3:30)を用いた学習

① 時刻が書いてあるカードを「〇時」と読む学習……………A

② 〇時の時刻が書いてあるカードを順番に並べる学習……………B

- ・発声は不明瞭であるが文字で正しく書くことができた。また、順番に並べることもできた。

(3) アナログ時計の学習

① アナログ時計の数字の配列が分かる。

- ・数字が入っていないアナログ時計のプリントに、数字を書くことができた。……………C

②長針と短針が分かる。

・アナログ時計を見て、「短い針はどれ？」と聞かれて、短針を指差すことができるようになった。また「長い針はどれ？」と聞かれて、長針を指差すこともできるようになった。

③短針が指し示す数字が「〇時」を表すことが分かる。

・見本の「〇時」の時刻を見て、右回りに長針を回しながら短針を動かして、同じ時刻を作ることができるようになった。

・時刻を読む学習は、宿題でも行った。短針、長針(12の位置)を見て、読んで書くことができるようになった。……………D ・ E

・「〇時」の時刻を、作ることができるようになった。

またプリントされたアナログ時計に、長針と短針を、書くことができるようになった。

④長針が指し示す数字が「〇分」を表すことが分かる。

・「5分から60分までを、5分刻みで読むことができること」を課題にしている。

・1分刻みで長針を動かすことが難しかったので、長針用のプリントに1分ずつ数字を書いて、読む学習を行ってきた。1分から30分までできるようになったので、30分から60分までの学習を行っている。……………F

・長針用のプリントに、5分刻みに数字を書いて、読む学習を行ってきた。5分から30分までできるようになった。……………G ・ H

・数字によって、「ふん」、「ぷん」と読みを変えることが、できるようになった。……………I

⑤短針と長針が指し示す箇所を見て時刻(何時何分)を読んで、書くことができる。

・5分から30分まで、5分刻みの読みができるようになったので、始めに、〇時30分の読みの学習を行なった。同時に、30分は「はん」と言うことを指導した。

・〇時を読むときは、「短い針は〇時と〇時の間だから、〇時」の言葉かけをした。宿題でも行った。……………J ・ K

・〇時30分の時刻を、読んで書くことができるようになった。

現在は、5分刻みの時刻を読む学習と、「〇時30分」を作る学習を行っている。

Ⅱ. 本時の指導

1. 学習課題・ねらい・教材

学習課題	ねらい	教材
・時刻を読む。	・「〇時10分」・「〇時05分」の時刻を読むことができる。	アナログ時計 時刻を書く用紙(<input type="text"/> : <input type="text"/>)

・アナログ時計のプリント(G)に5分から60分まで5分刻みで数字を書いて、読む。	・アナログ時計のプリント(G)に5分から60分まで、5分刻みに数字を書き、読むことができる。	アナログ時計のプリント(G)
・時刻を作る。	・「〇時30分」の時刻を作ることができる。	アナログ時計・時刻(〇:30)が書いてあるカード

2. 展開

学習項目	学習内容	学習活動	留意点
1. あいさつ 2. 始まりの時刻を書く。	「始めます」と一緒に挨拶をする。 ・アナログ時計(1分刻みの表示がある)を呈示する。「始まりの時刻を一緒に言いましょ。」と言う。 「書いてください。」と言う。 書いた後、「読んでください。」と言う。 ・終わりの時刻を 書いて伝える。	・「始めます」と一緒に挨拶をする。 ・時刻を一緒に言う。 ・時刻を書く。 ・時刻を読む。	
3. カレンダーで日にちや予定の確認をする。	・カレンダーを呈示する。 今日、明日、昨日の日にちの確認と、今日の天気、来週の予定の確認をする。	・聞かれたことに答えながら、確認する。	・分からないことは、教えながら進める。
4. 時刻を読む。 ①【〇時10分】	・アナログ時計を呈示する。 ・下記の時刻を作って問う。 <u>1試行目:3時10分</u> ①短針3、長針12の位置に動かす。 「何時ですか。」と問う。 ②短針3と4の間、長針2の位置に動かす。 「何時何分ですか」と問う。 ・「3時10分」と、子どもの半拍後に言う。	・「3:00」と答える。 ・短針を指差しながら、「短い針が3と4の間だから	・以下、試行毎にほめる。 ・間違えそうな時は短針と長針に指差しをするように言う。 ・答えが出なかったら教え

<p>②【0時5分】 (復習)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・用紙を呈示し、「書いてください。」と言う。 ・書いた後、「読んでください。」と言う。 <p>以下同様に4試行行う。</p> <p><u>2試行目</u>:4時10分</p> <p><u>3試行目</u>:5時10分</p> <p><u>4試行目</u>:6時10分</p> <p><u>5試行目</u>:7時10分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3, 4, 5試行目は②を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・下記の時刻を作って上記②と同様に行なう。 <p><u>1試行目</u>:1時05分</p> <p><u>2試行目</u>:2時05分</p> <p><u>3試行目</u>:3時05分</p>	<p>「3時」と答え、長針を見て「10分」と答える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3:10と書く <ul style="list-style-type: none"> ・「3時10分」と読む。 <ul style="list-style-type: none"> ・以下同様に答えて書き、読む。 <ul style="list-style-type: none"> ・短針を指差しながら、「短い針が1と2の間だから1時」と答え、長針を見て「5分」と答える。 <ul style="list-style-type: none"> ・1:5と書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・以下同様に答えて書き、読む。 	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間違えそうな時は短針と長針に指差しをさせる。 ・答えが出なかったら教える。
<p>5・プリント(G)に数字を書く。</p> <p>①5分から30分まで5分刻みで書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントを呈示する。 <p>「長い針の読み方をします。」と言う。</p> <p><u>①5分から30分まで</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・枠を指差して、「ここ(5分)からここ(30分)まで数字を書いてください。」と言う。 <ul style="list-style-type: none"> ・「読んでください。」と言う。 ・子どもの半拍後に言う。 <ul style="list-style-type: none"> ・30分の枠を指差して、「別な言い方で何と言いますか。」と、問う。 <p>「書いてください。」と言う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5分から30分まで、5分刻みで数字を書く。 ・5分から30分まで「分」をつけて読む。 ・「はん」と答える。 ・「はん」と書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・間違えそうな時は教える。

<p>②30分から 60分まで数を 言いながら進 み、5分刻み の枠(35分か ら60分)に数 字を書く。</p>	<p>②30分から60分まで</p> <ul style="list-style-type: none"> ・枠を指差して、ここから(30分)、1分ずつ数を言ってください。」と言う。 ・枠を指差して「ここに数字を書いてください。」と言う。 ・40分から50分は先に言う。その他は半拍後に言う。 ・書き終わったら「5分から、読んでください。」と言う。 ・子どもの半拍後に読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・30分から60分まで数を言いながら進み、数字を書く。 ・「5分」から「60分」まで「分」をつけて読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・間違えそうな時は教える。
<p>6. 時刻を作る。 【〇時30分】</p>	<p>1試行目:4時30分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4:30のカードを呈示し、「何時何分ですか。」と問う。 ・4を指差して「始めに4時を作ってください。」と言って、アナログ時計を呈示する。 ・カードの30を指差して「4時30分」を作ってください。」と言う。 ・「時刻を言ってください。」と言う。 <p>以下同様に4試行行う。</p> <p>2試行目:5時30分 3試行目:6時30分 4試行目:7時30分 5試行目:8時30分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「4時30分」と答える。 ・長針を動かして「4時」を作る。 ・長針を動かして「4時30分」を作る。 ・「4時30分」と言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・間違えそうな時は教える。
<p>7. 終わりの時刻を読んで書く。</p> <p>8. 終わりの挨拶をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2のはじまりの時刻と同様に行なう。 ・一緒に「終わります。」と言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2と同様に行なう。 ・一緒に「終わります。」と言う。 	

Ⅲ. 研究協議

研究会には特別支援学校の先生方や障害者の支援施設の方の参加がありました。研究授業の後、研究協議が行なわれました。授業者から、対象の子どもの実態の説明と時計の学習の経過についての補足説明がありました。

参加者からは以下の感想、意見等ができました。

- ・授業の様子から、いつもしっかり学習しているのだなと思った。
- ・指導開始時は発語がなかったが、現在は、発声はまだ不明瞭ではあるが、身振り手振りを交えて活発に話すことができるようになっている。今後も学習して得たものが子どもの自信になっていくと思う。
- ・時計の学習では、正時、半時を教えることが主たる学習になっているが、読みが定着しない場合があるので、1分刻みの読み方を教えるのは大切だと考える。

また、日常生活における変化についての質問があり、出かける時刻を知らせておくと、その時刻になると、教えるようになったとの話がありました。

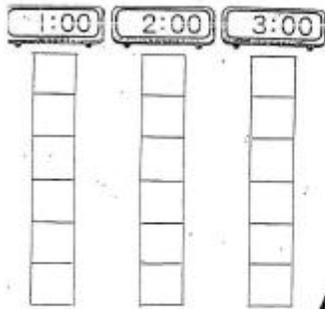
宮城先生からは、以下のような時計の学習の進め方の説明がありました。

- ・時計の学習の内容は①時刻が読める、②時刻を作る、③時刻が書けることが大切である。
特に時刻を読む学習では針を動かして読むことが最も大事な学習である。
- ・半時、5分刻み、10分刻みの学習の前にやらなければならないことは長針を動かして1分から60分まで言えること。言えない場合は時計の外側に1～60まで表示しておき一緒に言い、言えるようになったら数字をなくして言えるようにすること。
次に「〇時」と時刻を決めて、長針を動かしながら、〇時1分、〇時2分、〇時3分……と読み進めていく。その学習を、1時から12時の全ての時刻で行うこと。
- ・時計の学習に入るためには60までの数字が言える、読める、書けることができていること。
2桁の繰り上がりが出来ていればなお良いこと。
- ・意識的に生活の場で時計を使っていくことが、時間や時刻の概念をつくることに繋がっていく。

今回は時計の基本的な学習の進め方についてしっかり学ぶことができました。

また、「子どもの利き手について」や「見る学習について」も協議され有意義な話し合いをもつことができました。ありがとうございました。

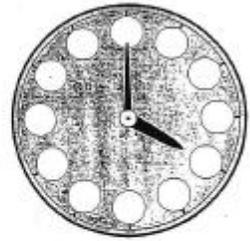
次回は10月に予定しております。多くの方のご参加をお待ちしております。



A



B



C



3時

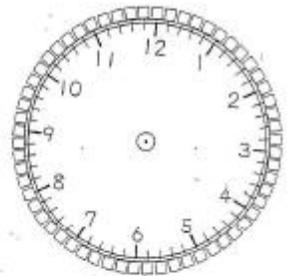
D



3:00

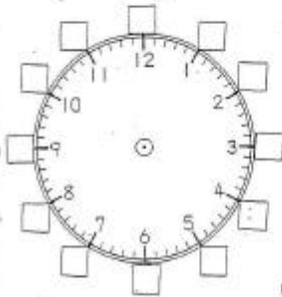
E

ながい はり



F

ながい はり



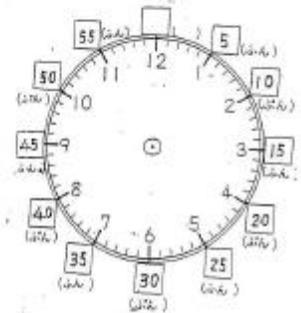
G

ながい はり



H

ながい はり



I



時刻 (時) 3 と 4 の間
時刻 (分) 30

3時 30分

J



時刻 (時) 3 と 4 の間
時刻 (分) 30

3:30

K